広がるはただ青き旅路ぞ (平成二十三年度寮歌

我如古弥司 安田 龍 華 君 君 作曲 作歌

今ぞ吾等が誠を奮い高唱いて進まん青き旅路をいまったらいました。 まるこう たいしょす しあお たびじ 危急の時代にあればこそ渦巻く疾風吾が勇を呼び怒涛は汝れに義を求むきょうとき 春風吹きゆく原始の森に吾れ微睡みて酒宴し て逍遥すれども其の歩は止まず

斗星と大志の結ぶ瞬間 染まず彷徨う其が白羽に 玉黍を食む旅鳥やたまきびはたびどり 星は昂々美稲超えて

広がるはただ青き旅路で

花は灼々壌撃つ酔いをはないたくしゃくしゃく 雪は皚々大地軋めてゆきがいがいだい ちきし

君影草の鈴音にきく

無明の曠野に巨熊眠るもむみょう。こうや、きょゆうねむ 氷 嵐まさに街を呑む 嗚呼黎明に吹雪も霧散すぁ あしののめ ゆき むさん 弦を矜持と爪弾けばつる きょうじ つまび

濃緑に萠ゆ白花に誇らん 翳して情熱をうち燃やし かざ さればこの手を春陽高く

> 己が混濁をうつし見て 水面に透くきみが底に 梢叢分けて河に落つ 月は朧々輝光は幽かっき。ろうろうきこう。かず 孤月仰ぐ子よ誰が為に泣くっ きあぎ こ た ため な

讃えて天宙を見仰げたののである。 芝草を枕に星を抱く 宙は悠々逍遥の果て ば

広がるはただ青き旅路で 有情の声に朋友和す寮歌を